

青カン者実態調査中間報告

釜ヶ崎では特別公共事業の影響で建設関係の仕事は徐々に減っているが、反対に青カン者（野宿者）の数が増えている。越冬実の統計によると、十二月二十五日から二月二十八日までの青カン者一日平均数は、一昨年が二人、昨年が一四四人と増加しているが、今年一月一日の三五四人をピークに徐々に下降線をたどってきたが、二月に入ってまた増えはじめ、同期間の一日平均青カン者数は約一八〇人と大幅な増加が予想される。

ただ今年、例年に比べて暖冬と越冬の闘いが徹底したためか、社会医療センター前に敷いた布団に寝る人が多く、凍死者が少なかったことは喜ぶべきかもしれない。だが、年々増加する青カン者に対し、なんら抜本的対策の見通しのないまま、一応二月末をもって越冬活動にカンマを打たざるをえない関係者の間では、早くも重苦しい雰囲気支配ははじめている。

越冬実では、今後の闘いの基礎資料として去る一月三十一日と二月八日の両日、医療セ

ンター前でアンケート調査を行った。調査は四一項目にのぼる莫大なもので、その関係、問題提起などは今後待つとして、ここでは大まかな数字を報告し、若干のコメントを加えておきたい。

1 年齢

年齢	実数	%
20~29才	4	4.8
30~39才	17	20.2
40~49才	39	46.4
50~59才	21	25.0
60~69才	3	3.6
計	84	100

2 出身地

地方	実数	%
九州	21	25.0
四国	7	8.3
中国	13	15.5
関西	26	31.0
中部	5	6.0
関東	6	7.1
東北	2	2.3
北陸	1	1.2
北海道	3	3.6
計	84	100

3 釜ヶ崎へ来てからの年数

年数	実数	%
1年未満	7	8.3
1~5年	17	20.2
6~10年	23	27.4
11~15年	15	17.9
16~20年	7	8.3
21~30年	8	9.5
30年以上	4	4.8
不明	3	3.6
計	84	100

4 先祖の主な職業

職種	実数	%
自作農	20	23.8
職人	9	10.7
自営業	9	10.7
工員	7	8.3
漁業	6	7.1
日雇	6	7.1
小作農	5	6.0
公務員	4	4.8
会社員	4	4.8
炭鉱	1	1.2
不明	13	15.5
計	84	100

5 釜ヶ崎に来る前の職業

職種	実数	%
工員	17	20.2
日雇	14	16.7
会社員	8	9.5
自営業	8	9.5
サービス	6	7.1
漁業	6	7.1
職人	6	7.1
農業	5	6.0
炭鉱	4	4.8
林業	2	2.4
運転手	2	2.4
不明	6	7.1
計	84	100

6 日雇雇用保険被保険者手帳

手帳	実数	%
有	8	9.5
無	34	40.5
紛失	39	46.4
不明	3	3.6
計	84	100

7 青カンしてからの日数

日数	実数	%
10日未満	32	38.1
20日未満	5	6.0
1カ月未満	7	8.3
3カ月未満	7	8.3
6カ月未満	7	8.3
1年未満	5	6.0
1年以上	4	4.8
不明	17	20.2
計	84	100

8 青カンの場所

場所	実数	%
センター前	51	60.7
三角公園	5	6.0
日本橋近辺	5	6.0
南海ガード下	4	4.8
天王寺公園	4	4.8
新今宮駅	2	2.3
花園公園	2	2.3
大阪駅	2	2.3
その他	5	6.0
不明	4	4.8
計	84	100

9 既疾患

肝臓一五 結核一三 負傷九 アル中五
胃腸四 心臓四 腰痛、はしか、脚気、鼻、痔各二 脱ソ、ぜんそく、尿道結石、精神各一

10 現疾患

肝臓一四 足一二 胃腸、腰痛、心臓各六
結核、負傷各五、神経痛、腕各四 痔三
アル中、歯、高血圧、耳鼻各二 脚気、かぜ
頭痛、精神、視力、指、ぜんそく、脱腸、関節各一

11 市更相への相談回数

回数	実数	%
なし	31	36.9
1回	20	23.8
2回	12	14.3
3回	6	7.1
5回	2	2.4
7回	2	2.4
10回	4	4.8
それ以上	1	1.2
不明	6	7.1
計	84	100

12 市更相からの入院

入院	実数	%
有	17	20.2
無	37	44.0
不明	5	6.0
無回答	25	29.8
計	84	100

以上の調査統計から、少なくとも次のことが考えられる。

* 他機関の調査同様、ここでも四〇代が約半数を占めている。年間三百人近い行路病死者を考え合わせると、釜ヶ崎には常に若年の流入者があることがわかる。

* 青カン労働者がかかり高令に見受けられるのは、身心の酷使によって実際よりふけて見えるということか。このことは、過去に日雇手帳をもっていて紛失した人が四六%もあることから裏付けられる。

* 出身府県別にみると、大阪一四人、鹿児島七人、福岡、岡山、広島、兵庫、和歌山が各四人である。全国三二都道府県にまたがって、まさに釜ヶ崎の労働者の問題は

全国の問題である。

*先祖の職業が農業の人が三〇%で、釜ヶ崎へ来る前の本人の職業が工員と日雇労働で三七%であることを考えると、青カン労働者の三〇%は工業化、都市化の波をもろに受け、しかも半数以上は十年以内に釜ヶ崎へ来た人である。

*青カンをしてから一カ月以内の人が半数以上で、日雇手帳を作りたいと希望している人が六〇%近くあった。働きたい意欲はあっても、病氣・障害のため青カンを余儀なくされていることが実情である。
*これほどきびしい現実にあって、市更相へ相談に行くことがない人が三七%もあることが注目される。



今井 金井氏が渡米

昨年四月、JNAC（日本米宣教協議会）の総会が日本で開催され、関西では特に部落差別について研修会がもたれたが、今般、NCC（日本キリスト教協議会）、日本キリスト教団部落差別問題特別委員会、部落解放キリスト者協議会の三者は、部落差別撤廃と取り組んでいる今井数一、金井愛明両氏を約一カ月間、北米に派遣することになった。二月十九日日本を立ち、三月二十二日帰国の予定。滞米中、両氏は各地のJNAC差別問題（マイノリティグループ）関係会議に出席し、日本における部落差別問題について学習、交流する。関係者は、これを機会に日本の教会内で部落差別への関心が高まることを強く期待している。

○越冬支援総括集会

キリスト教釜ヶ崎越冬委員会は三月四日午後六時～五日午前十一時、ふるさとの家（秋之茶屋三）で標記の集会を開催する。参加費は食事、宿泊代で五百円。今越冬を振り返り、問題点を検討し合い、今後の活動に多少なりとも展望を開き、生かしていきたい、というもの。越冬委員会では多数の参加を呼びかけている。

○今月の経済協力者（敬称略）

- 京都教会 森益子 片原真幾子
- 福田磯子 田中艶子 今井一子
- 杉崎富美子 小菅集会所 古川佳子
- 谷口博章 保手浜いづみ
- 高沢兼津子 鈴木登志子 大野一郎
- 井上たかこ 野沢金雄 竹内一臣
- 日吉教会 山田与八 小山美保子
- 小口美樹 山田紀子
- 平三喜子 村瀬たづ子 高杉津結子
- 加藤はつ江 進藤年夫 渡辺秀男
- 小栗かよ子 唐津教会
- リチャード・ネルソン J・ボーマン 斎藤朝則 今道裕之 堀川

辰司 斎藤広 小田秀幸 中谷淑子 ステイバ 豊中教会 豊中教会学校 間瀬成治 寺田幸子 上村希文 蟹江文雄 K・デール 船本弘毅 土肥正吾 神戸教会学校 山岸明子 渡辺尚志 神戸青年学生センター 窪田義幸 蒲田ルーテル幼稚園 薄田昇 遍詩得 恵 稲葉糸子 左近千代子 高木忠彦 山田いね子 沢田浩一 竹山美代子 前島宗甫 伊藤琴子 中村兌子 岸井敏

ご協力ありがとうございました。遠くの人、近くの人「喜望」は定期でご購読ください。
◇本の紹介◇
宮下忠子「山谷・涸橋―ドヤ街の自分史」

著者は東京・山谷の福祉センター医療相談員。身も心も傷つき病んで訪れる日雇労働者につきあって四年、かれら一人ひとりの個人生活史を丹念に記録。その実相は釜ヶ崎と変りはない。一説を。

（晩聲社 一三〇〇円）